

等との協力が必要と思っております。

- 医療費削減について
- 救急医療体制について
- 環境政策について



いざか かずや
飯坂 一也

質問 医療費を抑制するひとつの方法が、ジェネリック医薬品（後発医薬品）の使用による薬剤費の低減です。医師の判断によりますが、市として利用促進の働きかけが必要だと思います。そのために、患者さん用の「ジェネリック医薬品希望カード」を発行すべきと思いますが、伺います。



市長 奥州市国民健康保険の医療費は、101億円で前年比3・3%増となっています。ジェネリック医薬品の利用の促進は、患者さ

んの負担が軽減されたり、健康保険財政においても、医療費抑制の効果が期待できますので、「希望カード」を内容説明しながら配布してまいります。

質問 「ドクターヘリ」の受け入れ体制と「AED」配置の現状について伺います。

市長 「ドクターヘリ」は県が進めています。情報を得ながら体制を整備してまいります。「AED」は、87台が公共施設に導入されており。使用しやすい環境づくりのための導入一覧やマップについては、情報収集をしながらよりよい方法を検討します。

※AED…Automated External Defibrillatorの頭文字をとったもので、日本語訳は自動体外式除細動器という。小型の器械で、体外（裸の胸の上）に貼った電極のついたパッドから自動的に心臓の状態を判断する。もし心室細動という不整脈を起こしていれば、強い電流を一瞬流して心臓にショックを与えることで、心臓の状態を正常に戻す機能を持っている。器械の電源を入れれば音声を使い方を順に指示してくれるので、誰でもこの器械を使って救命することができる。

質問 温暖化対策のため、環境省が提唱する「クールアース・デー」を奥州市として推進すべきと考え

ますが、伺います。

市長 温暖化防止の啓発として、有効な手段と考えています。

「奥州めぐみネット」との協働で、できることから、ていねいに進めてまいりたいと思います。

※クールアース・デー…消灯による電力消費量の抑制と地球温暖化問題の啓発を目的に制定された記念日である。具体的には、夜間照明の消灯が呼びかけられている。毎年7月7日が「クールアース・デー」として制定。

○ 特別支援を要する幼児に対する支援体制について



おさむ みやの
三ノ宮 さん

質問 現在幼児の健診は3歳児健診のあと、就学児健診まで約2年ほど間があるのですが、文部科学省の調査では5歳児（年中児）の健診によって発達障がいのあるほとんどの幼児を把握できるという報告があります。その中の半数近くが3歳児健診では問題なしとされていることから、5歳児の健診が有効であるという考えが示されています。奥州市においての早期

健診及び早期支援の必要性についての考えを伺います。

市長 現在県内において5歳児健診を行っている自治体は二戸市、軽米町、九戸村等がありますが医師、臨床心理士等、専門職の確保の問題や健診後の受け皿としての支援体制に課題があります。奥州市では5歳児健診は行っていないが、それを補う体制として、園訪問を行っています。来年度は発達支援センターが開設されますが、さらにより発達支援のあり方を検討してまいります。

教育委員長 高機能自閉症に代表される発達障がい児の数は年々増加しています。早期発見により小学校就学前からのきめ細かい対応をとることによって、教育的効果が得られると考えています。昨年度から導入した「幼保小連絡カード」の活用をはかりながら、特別な配慮が必要な幼児がスムーズに小学校へ入学できるように引継ぎを進めております。5歳児健診については今後、子ども家庭課との検討を進めてまいります。